

報道関係各位

2020年8月6日

LIXILグループ 2021年3月期第1四半期決算(IFRS) 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、減収減益なるも 変革に向けた施策を加速

- 世界経済の減速の影響により、売上収益は前年同期比 15%減、事業利益は前年同期比 131 億円減となるも、6 月からは回復基調に
- 中期計画の達成に引き続き注力するとともに、環境変化により柔軟かつ機動的に対応できる組織の確立に向けて変革を推進
- 2021年3月期通期業績予想は、売上収益は前年同期比 11%減の 1兆 3,500 億円、事業利益は 52%減の 250 億円

株式会社 LIXIL グループ（以下 LIXIL グループ）は本日、2021年3月期第1四半期（2020年4月～2020年6月）の決算^{*1}を発表しました。

LIXIL グループ 社長兼 CEO 瀬戸欣哉のコメント

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な拡大は、当社の事業に引き続き大きな影響を与えています。第1四半期は、世界経済の減速とロックダウン（都市封鎖）による影響を受け、減収減益となりました。しかしながら、米国、欧州など主要な海外市場では需要の回復が見られており、さらにライフスタイルや購買行動の変化により新たな需要も生まれています。先行きが見通しにくい環境下にはあるものの、ニューノーマル（新しい日常）への対応力を高め、事業の変革を加速させていくことは、将来の備えとなります。

LIXIL グループは、戦略においても、事業運営においても、より強固な組織として進化を続けていきます。当社は、子会社の Permasteelisa や株式会社 LIXIL ビバの株式譲渡を発表し、バランスシートの大幅な改善が見込まれており、財務基盤をさらに強化することができます。また、柔軟かつ迅速な対応が可能なサプライチェーンを構築しており、在宅勤務によって従業員は生産性を高め、様々なステークホルダーと新しい形でのコミュニケーションを実現するなど、環境の変化にも対応しています。

当社は、持続可能な成長の実現に向けて、長期的な視点で様々な変革を推進してきましたが、こうした取り組みは着実に進展し、その多くは完了に近づいています。さらに、ニューノーマルに対応し、従来の対面型の館内サービスに、デジタル技術を活用したオンライン接客を加えたハイブリッド型のショールームサービスを展開するなど、差別化された製品、サービスの提供を通じ、新たな成長機会を捉えることに注力してまいります」

➤ 決算の概要

売上収益

2021年3月期第1四半期の売上収益は、前年同期比 15%減の 3,105 億円となりました。国内事業の売上収益は、前年同期比 12%減の 2,396 億円となりました。前年度において消費増税前の需要増の恩恵を受けたのに対し、当四半期においては、2020年1月～3月における新設住宅着工件数の減少、COVID-19の感染拡大による消費需要の減退や建設活動の減少の影響を受けて、すべての国内事業において減収となりました。一方で、LIXIL グループは、新たな成長機会を捉えるため、市場環境の変化に対応してきました。水

まわり事業の LIXIL Water Technology (LWT) においては、非接触型水栓の一つであるタッチレス水栓の売上が対前年比 43%増となりました。また、住宅建材事業の LIXIL Housing Technology (LHT) は、玄関用収納網戸が対前年比 80%増、宅配ボックスは 70%増、リフォーム用のシャッターは 40%増と好調な売上が記録しました。

LIXIL International が展開する海外事業の売上収益は、前年同期比 22%減の 757 億円となりましたが、為替の影響を除く現地通貨ベースでは、前年同期比 18%減でした。海外の全地域においてロックダウンの影響を受けたことで減収となりましたが、米国および欧州地域では、6 月にかけて堅調な回復が見られています。LIXIL グループでは、小売りおよび e コマースの販売チャネルの拡充を推進してきましたが、ロックダウン解除後は、これらのチャネルにおける売上が前年同期比で増加しています。

事業利益^{※2}

事業利益は、前年同期比 131 億円減となる -26 億円となりました。売上総利益率は、主に、利益率の高い海外事業の売上構成比率の低下や、製造部門の操業度の低下を受け、1.5 ポイント減少しました。また、全社における販管費は、3 か月間において前年同期比 91 億円の抑制となったものの、販管費率については売上収益減少により 2.2 ポイント悪化しました。一方、LHT では、生産効率改善に向けた取り組みが減収による影響を補い、事業利益率の維持に貢献しました。

最終利益^{※3}

最終損益は、事業利益の減少や、前年度に計上した関連会社に対する持分の譲渡益の剥落により、前年同期比 166 億円減となる -37 億円でした。

2021 年 3 月期通期業績予想

LIXIL グループは、本日、2021 年 3 月期連結業績予想を発表しました。通期見通しでは、売上収益は前年同期比 11%減の 1 兆 3,500 億円、事業利益は前年同期比 52%減の 250 億円を見込んでいます。最終利益も含めた業績見通しについては、改革プラン策定の最終段階にあることから、これに関連する費用を含めた上で、第 2 四半期決算発表時に発表する予定です。

2021 年 3 月期配当予想

LIXIL グループは、前年度と同じく、通期 70 円の配当を予定しています。

➤ 2021 年 3 月期 第 1 四半期 事業ハイライト

LIXIL グループは、中期計画の達成に向けて、収益力を高め、環境の変化に対応できる体制を強化するため、以下のような施策に注力してきました。

- **事業ポートフォリオの見直し**

事業構造の簡素化と基幹事業である水まわりおよび住宅建材事業への注力を進めるため、LIXIL グループは [Permasteelisa の株式譲渡](#) を発表しました。これにより、バランスシートや財務体質を強化し、基幹事業以外の分野におけるリスクを低減するとともに、新たな成長分野への投資が可能となります。Permasteelisa の株式譲渡の完了には、関係当局の承認が必要となりますが、4 か国中 3 か国において競争法上の許可を取得済みです。

また、株式会社 LIXIL ビバの株式譲渡も発表しました。この株式譲渡によって、事業の簡素化を図り、財務体質を強化するとともに、ホームセンター事業を展開する様々な国内事業者との連携強化が可能になり、新たなビジネスチャンスにつながります。本件に関しては、一連の取引の一環である株式会社 LIXIL ビバの公開買い付けの成立を、[7 月 22 日](#) に発表しました。

- **差別化された商品の開発**

LIXIL グループはさらなる成長に向けて、ブランド、デザイン、技術、品質面の強化に向けて、投資を継

続しています。その一環として、LHT では、住宅の玄関ドアに取り付け可能な電動オープナーシステム「[DOAC](#)」を開発しました。これは、世の中のニーズに迅速に対応するため、2019 年 4 月に発足した LHT の新規事業部門ビジネスインキュベーションセンターが開発した第 1 号製品となります。「DOAC」により、車いすユーザーが外出、帰宅する際や、重い荷物を持っている時など、誰でもタッチレスで玄関ドアの開閉が可能になります。

また、デザイン力の強化を通じた差別化にも継続的に取り組んできました。国際的に権威のあるデザイン賞である「Red Dot Award (レッド・ドット賞)」において、GROHE ブランドが 2019 年に「ブランド・オブ・ザ・イヤー」に選出されたのに続き、INAX ブランドが、この度、ブランドとコミュニケーションの分野で 3 つの賞を獲得しました。INAX ブランドのグローバル展開の拡大に向けて構築された同ブランドの世界観が高く評価されました。

COVID-19 の感染拡大に対応し、LIXIL グループでは国内ショールームにおいてデジタル技術を活用した「オンライン接客」を導入し、従来の対面による館内サービスの利点とオンラインの利点を融合させたハイブリッド型のサービスを提供しています。キッチンや浴室といった商品を実際にショールームで確認をしたいというエンドユーザーの希望と、オンライン上で商品を見て、購入を検討したいというニーズの双方に応えることができるよう、このようなハイブリッド型サービスの拡充を図っています。こうした取り組みを通じて、エンドユーザーにより近づき、多様なニーズに対応できるよう商品・サービスの強化につなげていくことができます。

- **サステナビリティへの取り組みの強化**

LIXIL グループでは、事業活動を通じた社会貢献を推進しています。COVID-19 の感染拡大を防止するには、石鹸での丁寧な手洗いが有効だということが調査で示されていますが、世界では 30 億人にのぼる人々が手洗い設備を利用できないという現実があります。当社では、ソーシャルビジネスを展開する「SATO」ブランドを通じて、開発途上国向けの新しい手洗いソリューション「[SATO Tap](#)」を開発しました。国連児童基金（ユニセフ）との既存のパートナーシップを通じ、COVID-19 の感染拡大防止に向けて、手洗い、衛生分野での活動を拡充していきます。

また、多様性、平等、インクルージョンの面においても、社会は課題に直面しています。LIXIL グループは、社内およびビジネスパートナーと共に、平等な扱いを徹底し、多様性を受け入れ、変化を促すため、[様々な対策](#)を実施していきます。当社では、CEO が委員長を務め、各事業部門の責任者が参画するダイバーシティ&インクルージョンに関する委員会を立ち上げ、戦略や施策の策定を推進していきます。

LIXIL グループは、このような ESG 分野における継続的な取り組みが高く評価され、社会的責任投資の代表指数である「FTSE4Good Index Series」と性別多様性の分野で優れた取り組みを行っている日本企業を対象とした「MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)」の[構成銘柄に選定](#)されました。

※1 2020 年 5 月 1 日および 6 月 9 日に開示した「連結子会社の異動（株式譲渡）に関するお知らせ」の通り、株式譲渡の対象となった Permasteelisa およびその子会社、株式会社 LIXIL ビバに関連して発生する損益の全てが「非継続事業」に分類されています。比較のため前期も同様に組替を行っています。

※2 IFRS の事業利益は、日本会計基準（JGAAP）の営業利益に相当。

※3 親会社の所有者に帰属する四半期利益。